

令和7年度 新豊崎中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和7年度 新豊崎中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【＝Computer Based Testing】とする）で実施。

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)			平均IRTスコア
実施月日			国語	数学	国語	数学		理科
3 年	学校	82	63	56	3.9	5.7	学校	546
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	大阪市	489
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンから学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
実施月日			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	82	74.7	57.3	57.9	54.1	62.0	2.9	3.8	9.2	7.0	3.6
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4
2 年	学校											
	大阪市	—										
	大阪府	—										
1 年	学校											
	大阪市	—										
	大阪府	—		—		—			—		—	

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※

※

※ 3年生の理科はB問題を選択

3 大阪市英語力調査（GTEC）

学年		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】	聞くこと 【リスニング】	書くこと 【ライティング】	話すこと 【スピーキング】
実施月日			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3 年	学校	88	137.6	126.8	175.3	110.2
10月23日	大阪市	—	117.4	110.2	146.4	98.4

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
	79	(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2 年 男 子	学校	25.65	26.54	39.97	48.91	87.91		8.04	196.86	18.57	40.89
	大阪市	28.65	26.89	43.47	51.80	80.14		8.06	195.02	20.28	41.69
	全 国	28.95	26.09	45.12	51.64	78.82		8.00	197.51	20.74	42.20
2 年 女 子	学校	24.40	24.32	44.18	44.38	53.97		9.07	171.88	11.00	48.89
	大阪市	23.12	22.70	46.32	46.59	53.12		9.03	166.76	12.20	48.14
	全 国	23.15	21.70	46.99	45.74	50.60		8.97	166.44	12.43	47.58

令和7年度 新豊崎中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査

＜国語＞

平均正答率は全国より8.7ポイント高い。記述式問題の平均正答率は全国より+11.6ポイントで、自分の考えをまとめる活動を継続してきた成果がでた。学校別解答状況整理表(以下、S-P表)より「文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうかをみる」趣旨の問題に課題があるため、自由記述の際に既習漢字を利用するように指導を行っていくことが必要だと考えられる。

＜数学＞

平均正答率は全国より7.7ポイント高い。関数領域の平均正答率は全国より+11.1ポイントで、ICTを活用して視覚的に捉えやすい授業を行った成果が出た。S-P表より「語句の意味を理解しているかどうかをみる」趣旨の問題に課題があるため、対話的な活動の際に数学的用語を使用するように指導を行っていくことが必要だと考えられる。

＜理科＞

平均IRTスコアは全国より43ポイント高い。IRTバンドが4以上の割合は全国より+14.5%で、主体的・対話的で深いの実現に向けた授業改善を行った成果が出た。S-P表より「塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる」趣旨の問題に課題があるため、小テスト等により理解度を確認していくことが必要だと考えられる。

＜生徒質問紙＞

「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の質問に対する肯定的な回答が全国平均よりそれぞれ11.3%、8.2%高い。また、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に対する最も肯定的な割合は全国平均より15.8%高い。

【今後に向けて】

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善やICTの活用により、学力向上が図れている。一方で、S-P表より基礎的な問題に課題がみられるため、教科で用いる語句を活用して記述的な活動や対話的な活動を行うように指導していく。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

＜成果＞

平均点は大阪府と比較して、全教科とも平均点を超えた。日頃の落ち着いた学習環境、何事にも熱心に取り組む姿勢がもたらした結果となった。

＜課題＞

各教科において、苦手分野をさらに確認し、今後の指導にいかしていく。

○大阪市英語力調査(GTEC)において、

＜成果＞

「読むこと」「聞くこと」「書くこと」「話すこと」のすべての分野において大阪市の結果を大きく上回った。特に「書くこと」においては、29.0ポイント上回った。

＜課題＞

「話すこと」は大阪市と比較しても高い結果であったものの、アウトプット活動(「話すこと」「書くこと」)の「書くこと」と比べると+11.6と低調であった。C-NETを積極的に活用し、アウトプット活動にも力を入れ、英語を用いて自らの考えや意見を述べることができる力を育成できるよう引き続き指導を行っていきたい。

○中学生チャレンジテスト(1年生・2年生)・中学生チャレンジテストplus

＜成果＞

平均正答率は大阪府と比較して、であった。

＜課題＞

○〇科において、であった。

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、

＜成果＞

男子は、全国と比較して「上体起こし」「20mシャトルラン」が、大阪市と比較して「20mシャトルラン」「立ち幅跳び」が上回った。また、女子では、全国、大阪市と比較して「握力」「上体起こし」「20mシャトルラン」「立ち幅跳び」「体力合計点」が上回った。

＜課題＞

総合的に見て、男子の運動能力が全般的に平均以下であった。生徒質問紙「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。」の肯定的な回答が、男子89.2%(全国91.1%、大阪市90.1%)女子71.4%(全国77.3%、大阪市75.3%)と全国、大阪市よりも低かった。

【今後に向けて】

今後は、保健体育科の授業をはじめ、あらゆる機会を通じて運動することへの興味・関心を引き出せるようにしたい。また、生徒の入力ミスが多数見られたため、正確な結果が反映されていると言い難い、次年度は、入力方法などもしっかりと確認していきたい。